



2013年9月27日

独立行政法人建築研究所国際地震工学センター

第101号

〒305-0802 茨城県つくば市立原1 TEL 029-879-0678 FAX 029-864-6777

今月の話題

- 研修修了そして帰国
- 国土交通大臣表敬訪問
- 政策研究大学院大学学位記授与式
- 第2回政研大学生会議
- 訃報
- 研修生代表答辞

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース(修士論文概要)

Bulletin データベース

地震データベース

2011年3月11日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ(世界の地震被害)

地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)

研修生の皆様 研修修了おめでとうございます。 また会いましょう。

2012年-2013年地震・耐震・防災復興政策研修コース及び津波防災研修コースの閉講式が、9月13日(金)11時~11時45分に建築研究所講堂において挙行されました。今回の閉講式は1960年から数えて第53回目の閉講式になります。



坂本建築研究所理事長

いただきました。お二人の挨拶に続き、ご来賓の政策研究大学院大学の安藤教授からご祝辞をいただきました。政研大は、修士プログラムの共同実施者になります。

祝辞に引き続き、研修修了証書と科目修了証書が研修生に授与されました。その後、ベストリサーチ賞の授与が行われました。ベストリサーチ賞は、政研大と国際地震工学センターが、学術的にレベルの高い優れた博士論文を作成した研修生3人に対し、その栄誉を祝福するために授与しています。今年、インドネシアの Mr. Chiko Bhakti Mulia Wiradikarta (チコ)、チリの Ms. Rocio Cecilia Rivera Rojas (ロシオ)、フィリピンの Mr. Julius Mandigma Galdiano (ジュリアス)の3人が受賞しました。



修了証書授与 シェ氏(中国)



研修生

生を代表し答辞を述べ式典は終了しました。(4ページ参照)

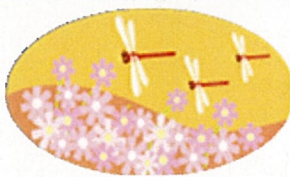
最後に、ペルーの Mr. Armando Israel Sifuentes Jimenez (アルマンド) が研修

論文募集

IISEE Bulletin は、現地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。



国土交通大臣表敬訪問

2012-2013年研修生は、9月3日、太田昭宏国土交通大臣を表敬訪問しました。



太田国土交通大臣表敬訪問

太田大臣は、京都大学で土木工学を学ばれました。大臣は、耐震工学に大変造詣が深く、大学・大学院時代の研究テーマから話を始められ、日本の地震災害対策について紹介されました。大臣は、研修生がそれぞれの国の防災分野で重要な地位につき活躍して欲しいと研修生を激励されました。

ミャンマーの Mr. Way Phyo Linn(リン)が、研修生を代表して大臣に御礼の言葉を述べました。インドネシアの Mr. Chiko Bhakti Mulia Wiradikart (チコ)、チリの Mr. Mauricio Esteban Reyes Gallardo (マウリシオ)、トルコの Ms. Pinar Inci Kocak (ピナール)、パプアニューギニアの Mr. Gilbert Kapi(ギルバート)が、それぞれの研究を紹介しました。

太田大臣のご厚意により、研修生は大臣室で約1時間過ごし、最後は1人ずつ握手して頂きました。

政策研究大学院大学学位記授与

政策研究大学院大学との共同事業により、IISEE 研修生は、1年間の研修を修了すると、修士(防災政策)号を取得することができます。

2012年—2013年研修コースの研修生も、政策研究大学院大学(GRIPS)の評価基準と評定に合格することができました。9月17日、GRIPSの想海樓ホールで学位記授与式が挙行されました。博士課程と修士課程の修了生190名が学位記を授与しました。防災政策プログラムの卒業生は33名でした。最初に中国の Mr. Xie Quancai(シェ)が学位記を受取りその後全員が続きました。式典においては、7人の卒業生が、学業成績優秀により学部長表彰を授与されました。



楽しむのは今です。

津波防災コースのチリの Mr. Mauricio Esteban Reyes Gallardo (マウリシオ) がその栄誉に浴しました。

式典の後は、卒業生と関係者はレセプションに参加しました。研修生全員が修士号の学位記を持って幸せそうでした。まさに研修生にとっては幸せなそして最後の日となりました。

IISEE を代表し、お世話になった皆様に心から感謝申し上げます。



マウリシオ氏(左から2人目)学部長表彰

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
<http://iisee.kenken.go.jp>

バックナンバーは下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

第2回 GRIPS 学生会議

第2回政策研究大学院大学学生会議が9月5日(木)開催されました。学生大会は、学際的・多分野的な会議とされ、今年のテーマは、「過去から学び、未来を見つめる」でした。会議では、学生の招待論文の特別セッションがあり、これは、プログラム担当の教授が、最も素晴らしい修士論文を作成したと認定した学生を対象としたものです。



ナゼリ氏(政研大にて)

IISEE では、最終個人研修発表会后、アルメニアの Ms. Galstyan Nazeli (ナゼリ) が、その卓越した発表により研修生代表に選ばれました。

ました。

ナゼリ氏は、準備時間が少なかったものの、「アルメニアにおける RC 建物の耐震性能向上のための免震補強技術」という課題で、非常に素晴らしい発表を行いました。パプアニューギニアの Mr. Gilbert Kapi (ギルバート) とペルーの Mr. Armando Israel Sifuentes Jimenez (アルマンド) もセッションに参加しました。

服部氏のご冥福を心からお祈りします。

国際地震工学センター管理室長 飯場 自子

平成25年9月7日に元国際地震工学部長服部定育様のご逝去されました。突然の悲報に深い悲しみを覚えます。服部様は、1984年～1987年まで国際地震工学部長を務められました。IISEE にとって大切な方でした。服部様が最後に贈ってくださった言葉は「グラッアス」、スペイン語のありがとうございました。ご家族の皆様にご心からお悔やみ申し上げます。



服部氏(中央)、渡部氏(左)1984年

☺ 研修生代表答辞

ペルー *Mr. Armando Israel Sifuentes Jimenez (アルマンド)*

建築研究所 坂本理事長、国際地震工学センター 横井センター長、政策研究大学院大学(前国際地震工学センター長) 安藤教授、国際協力機構筑波国際センター 植村次長、皆様、おはようございます。

私の友人である地震学、地震工学、津波防災コースの研修生を代表して、このように皆様にご挨拶できることは、私にとって喜びであり、名誉なことでもあります。スピーチはシンプルな言葉とシンプルな思考によって作られます。それは人が、日々もっと良い人になりますようにと願うように単純です。世界がもっと良くなり、平和になりますようにと願うように単純です。世界には様々な国があり、その国々にも様々な人々があります。人々が国を作り、国が世界を作ります。そう、それはとても単純なことです。もし、私達が変われば世界が変わるのです。



アルマンド氏

しかし、私達のその単純な考えと願いは、それらを実現するために、複雑な行動に変わってしまいます。私達の行動は、目的で決まります。私達の願いは、目的になります。私達はどこに向かっているのか、どんな役割を果たそうとしているのか知っていますか。災害リスク軽減は、国連のミレニアム開発目標を達成するための方法とされています。私達は自分たちの責任の重さを知っています。それは一つの国より大きく、皆様全員が関係します。

今、ここで、私達は、決意と努力をもって行動を起こし、目標を達成すると決めてから一年経ちました。困ったこと、疲れたこと、そしてストレスもありました。ホームシックにもなりました。寂しさも感じました。本日、私達は全ての困難に打ち勝ち、想像をしたこともないような境遇にも対処できる能力とエネルギーを持っていることを証明しました。

私達は、専門分野の様々なことを学び、自分たちの技術を向上させたと実感できました。今年は、耐震設計、P波、津波浸水という言葉がたくさん聞きました。しかし、私はこれらの言葉を一つの言葉で表現したいと思います。それは知識です。知識は私達の必要に応じて、社会をよりよくするために取り入れていけるものです。さらに、何のためにここに来たのか、私はもう一つの言葉で表現したいと思います。それは、何にも代えることのできないもの、経験です。昔から一つの国の経験は、最も貴重な資源を使って変革を行ってきました。それは人々です。

最後に、国際協力機構、建築研究所、国際地震工学センター、政策研究大学院大学の皆様、そして、この研修に貢献して下さった皆様に感謝申し上げます。

友人諸君、私達はそれぞれ遠くに離れますが、覚えておいてください。私たちは同じ惑星にいます。

